



目次

資料紹介	2
活動報告	3
博物館実習	4
SJレポート	6
活動日誌	7
2023年度室員	8

第二山水中学校の制服

2019年研究室購入資料

第二次世界大戦中に第二山水^{やまみず}中学校の生徒が着用していた制服。この中学校は、1940(昭和15)年4月に大阪偕行社附属小学校(現 追手門学院小学校)の校舎の一部を借用するかたちで大阪偕行社附属中学校(旧制中学校)として開校した。第1期生は170名で、山ロー二小学校長が学校長を兼任した。しかし、戦時経済の影響を受け、校舎建設は予定通りに進まなかった。

折しも、山下汽船株式会社社長の山下亀三郎氏による陸海軍への寄付を基に財団法人山水育英会(現 学校法人桐朋学園)が結成され、軍人子弟の教育を目的とする学校経営に乗り出す動きがあった。そこで1941(昭和16)年2月、大阪偕行社附属中学校の経営を財団法人山水育英会に移管することとなり、5月より校名も第二山水中学校と改称された。

終戦後は、1948(昭和23)年1月に財団法人香里学園に改組され、香里中学校となった。1951(昭和26)年には同志社大学に合併され、現在の同志社香里中学校に至る。



戦時中の制服ゆえにボタンは陶器製で、山(Wを逆さにした形)のうえに桜がデザインされた校章があしらわれている。大阪偕行社附属小学校の校章と類似しており、桜の中央の文字が小学校の「小」か中学校の「中」かの違いだけである。表の生地は国民服等にも使われたフス製と思われる、軍事教練で使用されることから脇下に開口部があり、左脇腹に剣吊がある。

前身頃の見返しには全国中学校制服商業組合連合会のワッペンが縫い付けられており、「文部省制定4號」であること、この制服の持ち主が第二山水中学校の三年二組の生徒であること、そしてその生徒の姓名と血液型が墨書きされている。

また、内ポケットには五十銭紙幣が2枚入れられていた。何かあったときの用立てにと保護者が忍ばせたものであろうか。本品は將軍山会館の1階展示室で常設展示しているので、間近でご覧いただくことができる。

(文責・小倉)



教育月報

2023年小学校購入資料

大阪借行社附属小学校で1916(大正5)年7月から毎月発刊されていた教育月報。学校長の教育方針や学校行事、先生の教育研究活動、児童の作品、各種通信などの記事が掲載され、保護者を

はじめ学校関係者に配布されていた。

このたび千葉県市川市の古書店で売りに出されていたものを小学校が買い求めた。第62号(1922<大正11>年2月発行)から第129号(1928<昭和3>年3月発行)までのうち第118号のみ欠号。加えて第170号(1932<昭和7>年1月発行)の全67部が残る。小学校在学中の6年間配布を受けたものを保護者がまとめたものと思われる。

片桐武一郎学校長の教育理念を探るうえで学院志資料としての価値は高く、戦前の教育史という観点からも貴重な史料といえる。(文責・小倉)



活動報告

学院志研究室の室員が認証アーキビストに!!

歴史的に重要な文書を管理する専門職員として、関西の私立大学では初めてとなる「認証アーキビスト」に学院志研究室の小倉久美子室員が認証されました。

アーキビストは組織において日々作成される膨大な記録の中から、世代を超えて永続的な価値をもつ資料を評価選別し、将来にわたって利用を保障するという極めて重要な役割を担います。ところが日本には公的な資格制度がなく、専門性をもった人材が育ちにくいと



いった問題がありました。そこで2020年に国立公文書館によって創設されたのが「認証アーキビスト」です。

YouTube「追大サブチャンネル」でも紹介いただきましたので、ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/p01gDD0zCXE?si=5aHwez-b-mjnV5zud>



博物館実習

学院志研究室では2023年度も博物館実習を受け入れ、春学期の授業時間に加え、8月29日、9月11日と12日の3日間の夏期集中に展示実習を、9月13日に資料整理実習を行いました。今年の実習生は10名でした。例年ですと將軍山会館の展示ケースを使った展示を企画していますが、今年は將軍山会館の広報活動を立案し、学生目線で將軍山会館の魅力を紹介する館内案内パンフレットを制作し、総持寺キャンパス食堂棟にパネルを展示しました。実習生による体験記をご紹介します。

初めてパンフレット作成をしたのですが、誰をターゲットにするのか、どういった内容にするのか、一から決めて行くのはかなり難しかったです。しかし、將軍山会館の魅力を、展示だけでなく施設の充実具合から見て伝えるというのは、普段博物館などを利用しない人々にも利用してもらう1つのきっかけになるのではないかと思います。今回、パンフレットとパネルにインスタグラムのスクリーンショットを使用しましたが、短い文章で伝えるのはとても難しかったです。

(国際教養学部 3回生 荒川心咲)

將軍山会館のパンフレット作成を通じてモノを作る難しさを学びました。文字の大きさ、レイアウト、パンフレットの折り方など様々な問題にぶつかりました。データ上ではいい感じに見えても実際印刷してみるとまた違った感じになり何度も修正を繰り返し繰り返しやっと完成しました。1つのパンフレットを生み出すだけでこんなにも時間がかかること、難しさを実感しました。しかし、時間を掛けた分の達成感は大きかったです。

(地域創造学部 3回生 加田陽向)

將軍山会館の利用を促すために、どのようなレイアウトや写真を選ぶかなど対象者を考えながらパンフレット作成するのは大変でしたが、作成しながらとても勉強になりました。また、学院志研究室の資料のクリーニング等、資料保存作業に触れることができ、追手門の歴史を感じながら貴重な体験ができました。

(国際教養学部 4回生 宇野眞麻)



パンフレットを作成する際には、文字の大きさや写真の場所等を考慮し、見やすくわかりやすいものにするのが重要だと感じました。学院志研究室では、蔵書点検と廃止公印の調書取りをさせていただきました。蔵書点検を行い、資料の数の多さに驚きました。また、定期的に資料の点検をしていることを知りました。公印に刻まれた文字を解読することが少し難しかったですが、楽しかったです。（国際教養学部 4回生 今倉穂風）

将軍山会館のパンフレット作成は一から自分たちで作成を行い、内容やデザインの構成はできましたが、パンフレットの大きさ、使用する写真の撮影の仕方など、私たち学生では分からないこと、出来ないことがまだまだあるということを実感しました。学院志研究室での実習で特に印象的だったのは、資料の蔵書点検です。普段入らない研究室で、追手門の歴史を感じられる資料に触れることができました。点検を行うことで、どの資料が足りないのか把握できる上に、間違った場所に収納されている資料を元に戻すことや、資料の保存の仕方を改めることができる狙いがあるのではないかと考えました。（社会学部 3回生 吉田健人）

学院志研究室では、追手門学院にまつわる多くの資料を保管しており、古いものでは明治・大正期の資料もありました。どこにどのような資料があるのかを整理し、点検するのは非常に大変な作業であるとともに、資料を保存していくにあたって重要な作業であることが蔵書点検を通して理解できました。触ったら破れてしまいそうなものがあったり、欠けている資料があったり、過去の蔵書点検が必ずしも合っているとは限らないため、すごく集中力が求められる作業だなと思いました。（心理学部 3回生 古橋彩羽）

資料、廃止公印、蔵書点検などの実習が楽しかったです。特に公印の文字には読めない文字があるけど、先生の指導に従い、想像より面白かったです。蔵書点検をする時、それぞれに分類されていますが、最初探すのは大変だったが、細目などを参照して前より上手くなりました。留学生の私にとって、いい経験になります。（地域創造学部 4回生 于正欣）

廃止公印の調書の作成がとても楽しかったです。公印というものの自体、あまり知らなかったし、触れたこともなかったので良い機会になりました。普段使っている文字ではなく、読みづらいものもありましたが、読めた時には達成感がありました。短い時間の作業にもかかわらず、とても印象に残っています。また、紙媒体の資料だけではなく、公印のようなものの整理も仕事としてあるということを知ることができました。（地域創造学部 3回生 島田咲）



2022年9月～2023年1月

2021年度秋学期に引き続き、2022年度春・秋学期の通年でSJとして勤務しました。

学院志研究室での仕事は、他では経験ができない、非常にやりがいを感じるものばかりでした。とくに記憶に残っているのは、廃止公印の調書作成と夏休みの博物館実習で補助をしたことです。公印に刻まれている書体は、普段目にするここのない書体で、作業を開始した直後はなかなか読むことができず、小倉さんに助けていただきました。しかし、数をこなすうちに、何が刻まれているのかがだんだんわかるようになり、最終的にはほとんど自分たちの力で判読することができるようになりました。

夏休みには今年(2022年度)の博物館実習にお邪魔して補助を務めました。今年度の展示のクオリティは高く、ギャラリートークもとても上手で、展示の工夫や裏話などがよく伝わってきて、とても楽しい時間となりました。また、資料整理と目録作成の補助にも参加しました。1年ぶりということで私自身も勝手を忘れていた部分がありましたが、少しずつ思い出しながら実習生の手助けを行いました。

週に1回という限られた時間ではありましたが、毎週大学へ行くのが楽しみであった理由は、学院志研究室でのSJの活動があったからと言っても過言ではありません、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(経営学部 4回生 山崎 日陽)

2021度に引き続き、2022年度もSJに参加させていただきました。今年は、昨年から続けている業務に加え、廃止公印の調書作成等の新しい業務もあり、夏休みには今年(2022年度)の博物館実習をサポートするかたちで参加させていただきました。

廃止公印の調書作成では、知識的な成長を実感できました。最初は公印をみてもそれがどこで使われていた印なのか、まったく理解することができませんでした。しかし何回も作業を重ねるうちに、公印の刻面を読めるようになり、公印の種類や印面からさまざまな情報を読み取り、ひとりでもスムーズに作業ができるようになりました。

今年の博物館実習では、これまでの知識を活かしてアシスタントとしてお手伝いさせていただきました。これまで得た知識を自分で使うことはあっても、それを伝える機会はないのでとても貴重な経験となりました。

業務を通して小倉さん、浜田さんをはじめ多くのスタッフや卒業生の方とお話する機会もあり、大学について多くのことを知りました。大学生活の最後の1年間を学院志研究室で働かせていただき、授業を受けるだけでは得ることのできない学びを得て、成長することができました。とても楽しく実りある時間でした。ありがとうございました！

(経営学部 4回生 澤頭 千春)

2023年5月～7月

5月からの3ヵ月間、学院志研究室でSJの活動を行いました。このSJに応募したきっかけとしては、事務の仕事をやりたいと思ったことと、大学の中でまだまだ行ったことがない場所も多く、このSJに参加することで大学についても知ることができるのではないかと考えたためです。SJの活動では、主に写真目録の入力を行いました。間違いのないように、気を抜かず丁寧に行うということを意識して取り組みました。写真目録の入力ではExcelを使用していたため、自身のパソコンのスキルも活かしながら取り組むことができたのではないかと思います。また、他のSJの方と協力して行った作業もあり、楽しみながら活動することができました。事務作業をしたり、他の学部の人と協力して作業することは、これまでの大学の生活の中で無かったことだったので、とても貴重な経験ができました。ありがとうございました。

(心理学部 4回生 吉元 恵未)

私は2023年度、博物館実習を履修しており、身近な場所で学んだことを活かせると思い、SJに参加しました。SJの仕事を通して、他では経験できないことができました。SJのなかで学んだことは2つあります。1つは資料についてです。資料整理を行う中で残すものとそうではないものとの区別がつけられていること、大学だけではなくて学院全体の資料が残されていることを知りました。学院の創立から現在に至るまでの貴重な資料にも触れることができました。保存の仕方、整理の方法を知り、将来に残していくために必要な技術を学ぶことができました。

もう1つは、整理保管の大切さです。ただ資料を並べるだけでは何がどこにあるのかが分からないため、ラベルやファイルなどを使い、探し出しやすいように整理する作業を行いました。ひとつひとつの作業の積み重ねが資料室にとっては重要なことであることがわかりました。さまざまな知識を楽しく学ぶことができました。(地域創造学部 3回生 島田 咲)

2022年

11月10日	将軍山会館ロビーにて、教育後援会奨学金交付式
12月1日	将軍山会館でSJがクリスマスツリーを飾りつけ
8日	2022年度第1回室員会議(於、将軍山会館)
21日	追手門学院中学校の生徒(1・2年生)が冬季郊外学習で将軍山会館を来館
26日	学院志研究室News Letter第15号を発行



2023年

1月1日	小倉室員が認証アーキビストに国立公文書館より認証
2月6日	将軍山会館2階の展示替え
28日	放送映画製作所所蔵のフィルムをデジタル変換
3月23日	将軍山会館1階の展示替え OIDAI MARKETの常設展示を開始
28日	井谷憲次氏(大学6期生)が将軍山会館を見学
5月11日	SJの学生2名が資料室でアーカイブ業務開始(春学期・秋学期のみ)
6月1日	追大サブチャンネルに小倉室員が出演
7日	オーテピア高知声と点字の図書館に資料を寄贈
23日	竹原孝則氏(大学9期生)が将軍山会館を見学
24日	将軍山会館ロビーにて、高島鞆之助賞表彰式
7月21日	学院デジタルアーカイブ、目録を更新
8月21日	資料室内でカビの発生を確認
22日	中之島図書館に資料を寄贈
9月26日	将軍山会館のピアノ調律
10月4～6日	全国大学史資料協議会2023年度総会・全国研究会に小倉室員が参加
12日	曾野豪夫氏ご家族(将軍山会館のピアノ寄贈者)が将軍山会館を見学、ご案内
27日	マザー年表をkintoneスタンダード版に移行
11月8日	将軍山会館ロビーにて、教育後援会奨学金交付式
21日	小川理子様(パナソニックHD参与)が将軍山会館を見学、ご案内
30日	小倉室員が大手前キャンパスへ学院内出張



2023年度 室員

室長	藤吉 圭二	(社会学部)
室員	瀧端 真理子	(心理学部)
	住谷 研	(中・高等学校)
	小倉 久美子	(総務課)

編集後記

ニューズレター16号をお送りします。表紙でもご紹介していますが、大学ふくめ各学舎に保管される資料や記録フィルムなどをデジタル化して「追手門学院デジタルアーカイブ」というタイトルのもとウェブ公開しています。今後も少しずつではありますが公開資料を追加していきます。ご覧いただければ幸いです。また印刷資料、映像資料にかかわらず、こちらで公開できそうなものがあれば学院志研究室までご一報ください。今年度の学院志研究室は、通常業務として定着してきたこの資料デジタル化・ウェブ公開の作業や將軍山会館での博物館実習への協力などを地道に進めてきました。今後も現関係者、以前の関係者だけでなく、広く「これまでの追手門学院」の様子をご披露すべく（予算とも相談しながら）作業を進めていきます。また今年は大阪偕行社附属小学校時代の貴重な刊行物が届きました。1916（大正5）年7月から毎月発刊されていた「教育月報」のうち1922（大正11）年からの6年分を中心に全67冊が古書店で売りに出されていたのを小学校で購入され、学院志研究室がお預かりすることとなりました。追手門学院小学校中興の祖とされる片桐武一郎が第8代校長として様々な改革に努めたのが1913（大正2）年から1938（昭和13）年の間で、ちょうどその時期に学校での児童の様子や新たな取り組みなどを冊子にまとめて当時の保護者などに配布していたものと思われます。片桐武一郎の教育理念、学校での取り組みなど当時の出来事や所感が毎号詰め込まれており、次世代育成にかける熱意がうかがわれます。いずれご披露できればと考えています。（藤吉圭二）

資料の寄贈・移管のお願い

学院志研究室では、追手門学院の歴史および学院関係者の事跡に関する資料を広く収集しています。広報誌などの学内刊行物、記念品、写真、フィルム、学生生活に関わるものなど、学院に関する資料がございましたら、末尾までお気軽にご連絡ください。

追手門学院大学 学院志研究室 News Letter 第16号 2023年12月26日発行

■お問い合わせ先■

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15

☎ 072-665-5062 (内線4405)

✉ archives-g@otemon.ac.jp

バックナンバーはホームページでダウンロードしていただけます

